

「国会でまったく訳が分からないことを言っているけど、総理大臣がこんなことではないの?」。自宅でテレビニュースを見ていた高校生の息子が問いかけてきた。安倍晋三首相が「桜を見る会」を巡り、地元後援会の参加について「幅広く募っている」という認識で、募集しているという認識はなかった」とした答弁のことだ。

「他の政治家も質問にまともに答えなかったり、はぐらかしたり。いったい何をやっているんだらう」と続ける息子に対し、「そういう人たちを選ばないよう、選挙の時に見極めて投票するしかないよ」と答えるのが精いっぱいだった。

息子があきれられるのも無理はない。安倍政権は「桜を見る会」に反社会勢力の人間が招待されていたかについて質問されると、招待者名簿は「個人情報」として一切説明せず、名簿の破棄記録は「国家機密」とする。会の私物化が指摘されると、「民主党政権でもやっていた」と責任転嫁。カジノを含む統合型リゾート施設（IR）を巡る汚職事件に関しては「捜査に関わる」として答えない。野党議員の追及に首相が「うそつき」と感情をむき出しにして反論し、自席からやじを飛ばす。「小学生の学級会でもあり得ない」（息子）ような光景だ。共同通信が一月一一、一二日に行った世

## 政治離れとスマホアプリ

論調査で、首相は「桜を見る会」の疑惑に關して「十分説明していると思わない」とする回答が八六・四％に上ったにも関わらず、安倍政権の支持率は四九・三％。桜を見る会を巡る問題がマスコミで取り上げられ続け、さらに、IR担当の内閣府副大臣だった現職衆議院議員の秋元司容疑者が取賄容疑で逮捕されたにも関わらず、支持率は昨年一月一四、一五日に行われた前回調査に比べて六・六ポイント上昇した。

安倍政権がこれほど高い支持率を保っているのはなぜだろう。立憲民主党と国民民主党の合流協議が仕切り直しとなるなど、野党への期待感がしぼんだことも影響したこともあるだろう。それでもかつてであれば、森友・加計学園問題に關して「桜を見る会」を巡る問題が追及され、「政治とカネ」の問題で2閣僚が相次いで辞任するなど、いつ政権が倒れてもおかしくない状況のはずだ。

これは想像に過ぎないが、政治への無関心が背景にあるのではないか。新聞を購読せず、テレビもほとんど見ないという人が、特に若い世代に増えている。スマートフォンには社会、芸能、スポーツなどの各種ニュースをまとめて表示してくれる便利なアプリがあり、情報はそこから入手しているという。私も新聞、テレビを見た上で、

スマホアプリを利用している。道内紙がほとんど取り上げてくれない道外のプロ野球球団や海外サッカーの情報を読むためだ。

アプリは私が購読するニュースの傾向を分析しているのだろうか。一年以上にわたって利用していると、「私好み」のスポーツ情報が上位に表示されるようになり、政治関連のニュースは少なくなっていく。新聞を読まず、テレビも見ない人が、このアプリから情報を入手し続けていたらどうなるだろう。野党が「桜を見る会」をいくら追及しても、「政治とカネ」で閣僚が辞任しても、そのニュースはほとんど届かない。政治の問題はよく知らないし、悪く変わるより今のままが良い。そんな雰囲気広がっているのではないか。

どうしたら多くの人が政治に関心を持つようになるのか。奨学金や最低賃金、出産、子育てなど、若者の生活に直結する問題について、当事者を巻き込んで議論して答えを見いだすことで、政治への信頼を取り戻していくしかないだろう。「疑惑」をはぐらかし、うやむやにしようとする政治がまかり通るようでは、信頼回復など望むべくもない。選挙権年齢に達した息子は「次の選挙で投票に行くのが楽しみ」と話している。せめてその関心を失わせないうな国会論議をお願いしたい。